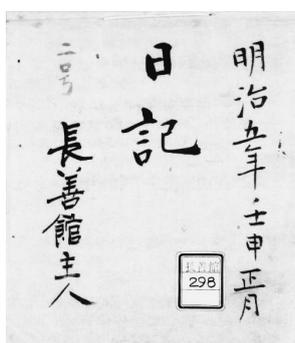


＜越後佐渡おもひる歴史ばなし＞

旧暦は死なず！ —明治の改暦と新潟県民—

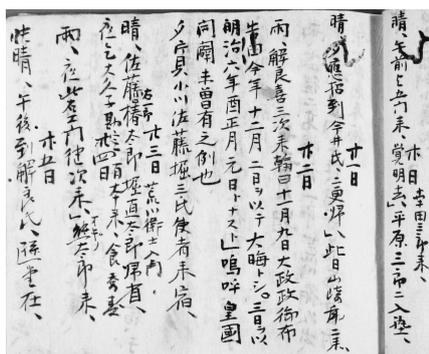
クリスマスに忘年会、お正月の準備と、世間では何かとあわただしい12月。この12月がわずか二日間で終わった年があるのをご存じでしょうか。



【西蒲原郡粟生津村長善館学塾資料「日記 二号」】
(請求記号E9306-298)

明治5年(1872)11月9日、明治政府はこれまでの太陰太陽暦¹⁾をやめ、太陽暦(グレゴリオ暦)²⁾を採用すると発表しました。その際、太陽暦の新年に合わせて、来る12月3日を明治6年1月1日として、この改暦を実施すると定めたのです。ただでさえ急な発表でしたが、

当時は郵便や電信がようやく整備され始めた頃だったため、地方までこの情報が届くのはさらに何日もあとになりました。突然今までの暦が使えなくなり、新年が約1か月前倒しされるという状況に、人々の戸惑いはいかばかりだったことでしょう。

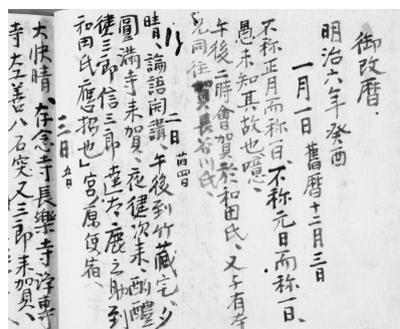


【明治5年11月22日付】

に手紙によって改暦を知りました。政府の決めた新年まで10日しかなく、その日の日記に「わが国始まって以来、前例のないことだ」(意識)と驚きを記しています。

惕軒は、ひとまず大晦日の12月2日に、新年を迎える準備をし、歳末の挨拶などを行っています。

やはり違和感があったようです。迎えた明治6年1月1日付には「御改暦」と書き、「正月といわずに一月といい、元日といわずに一日という、愚かにもその理由が未だにわからない」(意識)と述べてい



【明治6年1月1日付】

ます。彼は1月の日付に毎回旧暦を併記し、しまいには1月30・31日を鈴木家独自の「大晦日・元日」としてしまいました。さらに翌年には、惕軒の住む粟生津村自体が

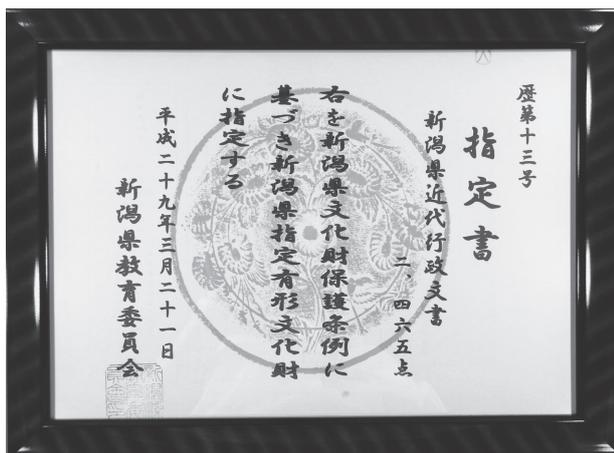
2月1日を村の元日と定めたため、それ以降は、新暦の新年と村の新年、両方の準備やお祝いを行います。この習慣は息子の彦嶽^{げんがく}の代にも続けられました。

どうやら、日本人の季節感にも合っていて、長年慣れ親しんできた旧暦に基づく生活サイクルは、簡単に切り替えられるものではなかったようです。粟生津村に限らず、県内の農村部の多くは、第二次世界大戦後まで旧暦に合わせた生活を続けました。現在のように新暦が人々の生活に定着したのは、高度経済成長期を迎えた昭和30年代以降のことになります。

- 1) 太陰太陽暦…月の満ち欠けを元にして、太陽の運行を加味した暦法。日本では、明治の改暦まで使われていた太陰太陽暦を一般に「旧暦」といいます。
- 2) 太陽暦(グレゴリオ暦)…太陽の運行に基づいた暦法。1582年に制定されて以来、ヨーロッパを中心に多くの国々で採用されていました。「旧暦」に対し「新暦」ともいいます。

※新潟県立文書館HPに掲載中

=新潟県指定有形文化財に指定されました！=



新潟県有形文化財指定書

◎新潟県近代行政文書の概要◎

- 1 旧佐渡郡役所文書
- 2 明治期から戦前期までの新潟県の行政文書 (移管文書)
 - (1) 県議会関係文書
 - ・通常県会関係書類、県会議決書類など
 - (2) 市町村関係文書
 - ・郡長意見並びに戸長惣代答申書類など
 - (3) 農林水産業関係文書
 - ・公有林野整備関係書類など
 - (4) 土木・港湾・河川関係文書
 - ・鉄道関係書類、国境関係書類など

当館所蔵の新潟県近代行政文書群が、平成29年3月21日に新潟県指定有形文化財に指定されました。

新潟県近代行政文書とは、明治期から昭和21年までに作成され、県庁各課から県立文書館に移管された2465点の行政文書群です。

この行政文書群は、県議会や市町村関係の実情を追跡できるものなど、新潟県の近代を探求するための基礎資料群であり、県行政や県政の実態の検討に不可欠な中核資料として貴重なものです。

平成27・28年度に閲覧可能になった受贈受託文書

平成27・28年度より、新たに閲覧可能になった受贈受託文書を紹介します。

| 請求記号 | 文書名 | 文書群解説 |
|--------------|------------------|--|
| E1309 | 南蒲原郡見附町渋谷家文書 | 元禄10年～近代、564点。六合庵茶山 <small>ろくごあんさざん</small> との関係が深く、俳諧関係の資料多い。 |
| E1313 | 西蒲原郡五十嵐浜村庄屋若杉家文書 | 宝暦4年～明治39年、619点。近世庄屋の自家経営文書。 |
| E1315 | 三島郡灰下村庄屋丸山家文書 | 正保4年～昭和34年、203点。近世庄屋の自家経営文書。 |
| E1317 | 刈羽郡内ほか県内各地文書 | 宝暦9年～大正2年、79点。近代の刈羽郡内の金銭帳簿類ほか。 |
| E1410 | 北蒲原郡福岡村齊藤家文書 | 宝暦10年～近世末。9点。新田開発をめぐる訴訟関係文書ほか。 |
| E1502 | 中魚沼郡川治村近世松澤家証文類 | 寛政5年～万延元年、5点。中魚沼郡川治村松澤家文書(E9114)を補完する近世証文。 |
| E1503 | 『歌の葉』ほか | 近世～明治43年、6点。国文学関係の他に近世の健康についての指南書『貝原養生訓』含む。 |
| E1505 | 中頸城郡町田村関係文書 | 慶応元年～明治15年、11点。「婚礼諸入用附込帳」など。 |
| F85・87・89・92 | 南蒲原郡見附町大庄屋金井家文書 | 明暦2年～大正12年、2106点。近世庄屋の自家経営文書。 |
| F93 | 中蒲原郡下興野村名主桂家文書 | 元和9年～明治27年、7278点。新津町大庄屋桂家の分家。自家経営文書ほか。 |
| F99 | 新潟市小澤家近代文書 | 享保4年～平成2年、225点。米穀取引に関する資料ほか。 |
| F101 | 柏崎石油株式会社関係文書 | 慶応2年～明治36年、198点。新潟県内の石油産業に関する資料。 |

新潟県立文書館

検索

文書館小辞典

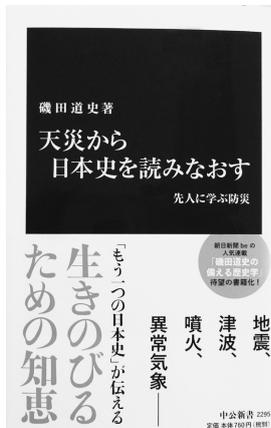
《保存編》

Q 文書類を大切に保管したいのですが、どのようなことに気をつければよいですか。

A もし、クリップやステープラ等で留めてあるものがあれば、これらは時間とともに劣化して紙自体を傷めてしまいます。はずせるものは、はずしておきましょう。ただし、はずすことによって紙を傷めてしまうようであれば、はずさない方が良いでしょう。そして、ホコリがたまると虫やカビなども発生しやすくなりますので、ホコリをしっかりと払い用意した収納箱に入れてください。いっしょに防虫剤を入れておくと被害も少なくなります。箱には文書を詰めすぎないようにしましょう。無理なく持ち運びできる程度の量にとどめてください。重くなりすぎると持ち運びに手間取りますし箱自体の破損にもつながります。箱内に多少の空間があると防虫剤の効果が箱全体に行き届きやすくなります。置いておく場所は雨漏り等の心配がなく、湿気の少ない場所を選びましょう。可能であれば、年に1回は箱から文書を取り出し、外気に触れさせて虫干しをしてください。くれぐれも直射日光に当てないように気をつけてください。

また、容器の側面に収納されている内容を紙に大きく書いて貼っておくと、容器を開けなくても中身の確認ができるので、今後文書を利用していく際に便利です。

文書館の本棚



「天災から日本史を読みなおす 先人に学ぶ防災」
磯田道史 著
中公新書
2014年11月

テレビなどのメディアに頻繁に出演し、映画にもなった「武士の家計簿」や「無私の日本人」などの著作でも知られる歴史学者の磯田道史さん。その磯田さんが、実は災害史の研究をライフワークとされていることは、意外と知られていないかもしれない。本書は、母親が幼いころ昭和南海地震の津波から生きのびたという話を聞かされて育ち、大学一年の時から、地震や津波に関する古文書の収集を続けてきた磯田さんが書いた、災害から命を守る先人の知恵の記録を集めた防災歴史書である。

読んでいて圧倒されるのは、古文書との出会いを求めて、どこへでも出向いていく磯田さんの行動力だ。たとえば、秋田市で研究会の発表があるとなれば、寸暇を惜しんで県立図書館内にある県公文書館に向かう。

「私は、地方に行くと、必ず心がけていることがある。『捨て目を利かせる』ことだ。わずかな時間でも、地元の図書館・古本屋に足を運び、古文書を探す。『意外な古文書が、どこから転がり出てくるかわからない』と考え、鷓の目鷹の目で、その町をかぎまわることになっている。」と、本人が書いているように、全国各地での古文書との出会いの場面が、本のあちこちに出てくる。

本書は、日本エッセイスト・クラブ賞を受賞しており、上杉景勝の正室・菊姫が伏見地震の際、怪力を出して屋敷内の女中たちを助け出したエピソードなど、軽妙な語り口で書かれていて読んでいて面白い。そして、全編を通じて、「現代を生きるために過去をみる」ことの必要さを教えてくれ、あらためて古文書が残されていることのありがたさを知らされる一冊である。【皆川記】

平成29年度文書館10月以降の主催講座

◆10月以降の主催講座をご案内します。

○古文書講座

| 講座名 | 日程 | 時間 | 定員 | 会場 |
|-----------------|---------------------------|------|------|---------------------------|
| はじめての古文書講座 (冬季) | 11/29(水)・12/6(水)・12/13(水) | 120分 | 15名 | 共同研修室 1・2 |
| 古文書初級解読講座 (冬季) | Aコース 1/17(水)・1/24(水) | 120分 | 各60名 | どちらも大研修室 ※A・Bコースともに同内容 |
| | Bコース 1/19(金)・1/26(金) | | | |
| 古文書解読講座 (冬季) | 2/7(水)・2/14(水) | 120分 | 180名 | ホール |

※時間はすべて13:30～15:30

※古文書講座は資料代100円が必要です。

○「新潟県の歴史」講座

《歴史講座》

| 講座回 | 日程 | 時間 | 定員 | 会場 |
|-----|----------|------|------|-----|
| 第2回 | 11/25(土) | 120分 | 180名 | ホール |
| 第3回 | 3/10(土) | 120分 | 180名 | ホール |

※時間はすべて13:30～15:30

《教養講座》

| 講座回 | 日程 | 時間 | 定員 | 会場 |
|-----|----------|-----|------|-----|
| 第5回 | 10/18(水) | 90分 | 180名 | ホール |
| 第6回 | 11/15(水) | 90分 | 180名 | ホール |

※時間はすべて13:30～15:00

○特別企画展解説講座

| 講座コース | 日程 | 時間 | 定員 | 会場 |
|-------|---------|-----|-----|-----------------------|
| Aコース | 11/2(木) | 60分 | 60名 | 大研修室 ※A・Bコースともに同内容 |
| Bコース | 11/9(木) | 60分 | 60名 | |

※時間はすべて13:30～14:30

○特別企画展

| タイトル | 日程 | 時間 | 会場 | 備考 |
|----------------------------------|--|------------------------------|----------------|---------|
| 「地図にみるふるさとのすがた - 描かれた越後・佐渡 -」 | 平成29年10月31日(火) ～11月12日(日) (12日間) | 9:30～17:00まで ※11月6日(月)は休館 | 新潟県立文書館 閲覧室 | 入場は無料です |

アーキビスト 文書館職員随想

新潟県立文書館は、今年8月7日に開館25周年を迎えました。新潟県の古文書や歴史的公文書の収集・保存・活用にこれからも一層取り組み、県民の皆様の期待に応えるよう邁進して参ります。

さて、6月に国立公文書館主催の全国公文書館長会議に出席して参りました。主なテーマは①「明治150年に向けた取り組み」と②「公文書館職員の育成と活用」という2本立てでした。

①のテーマについてですが、来年は明治がスタートしてちょうど150年という節目の年に当たるため、国や各自治体ではさまざまな取組みが企画されています。当館でも教養講座や歴史講座、そして特別企画展で明治時代に焦点を当ててどのような時代であったかを探る予定です。江戸から明治へと激変した時代ですが、50代半ばの私にとって祖父や祖母の生まれ育った時代であり決して遠い昔ではありません。当時の様子を少しでも垣間見ることができればと思います。

②のテーマについてですが、当館の職員のような職業を英語でアーキビスト（訳すれば文書管理の専門家）といいます。欧米では職業として確立しているため、国の公文書館規模では日本の何十倍も職員がいて、文書の収集や保存も徹底しているところが多いのですが、日本では残念ながら職業として国家資格があるわけでもなく養成大学も極めて少なく、

国や自治体の公文書館の職員数も限られています。今後、学芸員や司書のように職業として確立することが急務であり、国立公文書館を中心に議論されているところです。

そもそも「文書館って何？」という質問を受けることが多くあり、当館の仕事があまり知られていないことも事実です。当館の仕事は古文書や歴史に関する講座だけでなく、古文書や公文書の保存に関する仕事など100年後の県民に評価される仕事であり、職員も新潟県の歴史をつくる仕事に携わっていると自負しています。

今後は文書量の増加により書庫の狭隘化が深刻になってくることも予想されます。開館25年にあたり課題となることは山のようにありますが、それらをひとつひとつクリアして、次の四半世紀に繋げていきたいと考えています。【副館長 佐藤】

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市中央区女池南3-1-2

TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737

URL. https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569

E-mail. archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp